

ルワンダ月報（2022年5月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

1. 内政・外政

- 2日、カガメ大統領が、ルワンダ訪問中のスコットランド（Patricia Scotland）コモンウェルス事務総長と面談、6月にルワンダで開催されるコモンウェルス首脳会議について協議。
- 4日、鈴木貴子外務副大臣が、二国間の経済関係強化のためルワンダを公式訪問。ビルタ外務・国際協力大臣及びインガビレICT・イノベーション大臣と面談し、二国間関係から国際関係にわたる幅広い議題について意見交換を行った。（The New Times）
- 5日、カガメ大統領がKCBグループ（当館注：ケニアに本社を置く金融サービス会社）のカイル（Andrew Kairu）チェアマンと面談。同チェアマンは、KCBルワンダとBPR銀行を統合してできたBPR銀行の設立式のためルワンダを訪問中。
- 12日、カガメ大統領が、スイスの起業家によって設立された中小企業支援を行うNPOであるBPN（Business Professionals Network）一行と面談。一行は、ルワンダにおけるBPN開設10周年を記念してルワンダを訪問中。ルワンダにおける開設以来、BPNは起業家300人に対して支援を行っている。
- 13日、ビルタ外相がタンザニアを公式訪問。ハッサン・タンザニア大統領にカガメ大統領のメッセージを伝達した。メッセージの内容は明らかにされていない。
- 17日、ンダギジマナ財務・経済計画大臣がジョアン（Mario Augusto Gaetano Joao）アンゴラ経済計画大臣と面談。国家計画や開発銀行の発展等、経済開発を促進し、インフォーマル・セクターをフォーマル化するといった両国共通の関心事について協議。
- 17日、キガリにおいて、アフリカで初の「万人のための持続可能なエネルギー（SEforALL）」フォーラムが開催。カガメ大統領が挨拶を行い、アフリカ大陸は気候変動に起因するエネルギー危機に対して脆弱であり、再生可能エネルギーへの転換のため、同分野への投資を惹きつける環境を整備することが重要と述べた。
- 18日、UNHCRのアンドリュー・ハーパー（Andrew Harper）気候変動特別アドバイザーがルワンダ訪問。ハビンシュティ緊急事態省次官と面談し、難民キャンプやホストコミュニティにおける環境保護や再生可能エネルギーに関する取り組み等について協議。
- 19日、フランス語圏国際機関（OIF）が、ルワンダ・ミリタリー・アカデミーにおいて、平和維持部隊として仏語国に派遣予定のルワンダ国防軍（RDF）人員向けのフランス語プログラムを開始。当初プログラムには、中央アフリカ共和国に派遣予定の50名が受講する。
- 19日、カガメ大統領がサウジアラビア王室のアフメッド・ビン・アブドゥル・アジズ・カタン（Ahmed Bin Abdul Aziz Kattan）顧問と面談。同顧問は、サルマン・ビン・ア

ブドルアジーズ・アール・サワード国王からのメッセージを伝達した。ルワンダとサウジアラビアは2018年に外交関係を樹立し、貿易、投資、保健、教育、観光、エネルギー、インフラ開発等の分野で良好な関係を築いている。

- 19日、カガメ大統領が、アフリカ連合（AU）のバンコレ・アデオエ（Bankole Adeoye）政治・平和安全保障委員と面談。同委員が2021年に選出されてから初のルワンダ公式訪問。
- 19日、タウンSEND（Gen Stephen Townsend）米国アフリカ担当司令官がルワンダ訪問。カガメ大統領と面談し、地域の平和と安定に向けた両国の協力について協議する。
- 20日、ビルタ外相が英国及びギリシャを公式訪問。英国では移民・経済開発パートナーシップについて英国政府関係者と協議。ギリシャではニコス・デンディアス（Nikos Dendias）外相と面談し、二国間関係の深化について境地するとともに、文化及びスポーツに関する覚書に署名した。
- 20日、カガメ大統領が、ルワンダを公式訪問中のムシキワボ（Ms. Louise Mushikiwabo）フランス語圏国際機関（OIF）の事務総長と面談。（当館注：ムシキワボ事務総長は、元ルワンダ外相で、2018年にOIF事務総長に就任。）
- 20日、カガメ大統領が、ルワンダ国防軍（RDF）の最高指令官として、RDF人員50名が受講予定。ルワンダ国家警察（RNP）、国家諜報治安サービス（NISS）等が参加する委員会（High Command Council）を開催。参加した治安関係機関に対し、国家の社会経済変革への貢献と治安維持の努力を呼びかけた。同委員会は意思決定のための会として年1回開催されている。
- 24日、ダボスで開催中の世界経済フォーラムに参加中のカガメ大統領が、チャクウェラ・マラウイ大統領と面談、両国関係について協議。
- 24日、ンギレンテ首相がガーナで開催されるアフリカ開発銀行（AfDB）の第57回年次総会に参加。
- 26日、カガメ首相が、ダボスで開催された世界経済フォーラムの最終日にショルツ独首相と面談。ワクチン製造を含む、各種分野における二国間協力について協議。
- 28日、ルワンダがコンゴ（民）に対し、コンゴ（民）軍（FARDC）及びルワンダ解放民主勢力（FDLR）により拘束されたルワンダ人兵士2名の解放を呼びかけ。ルワンダ軍は23日から武装勢力M23と衝突しており、コンゴ（民）側から発射されたロケット弾がルワンダ北部のムサンゼ郡及びブレラ郡に着弾している。コンゴ（民）が、ルワンダがM23を支援していると非難する一方、ルワンダは、FARDCがFDLRに所属するルワンダ人フツ族と連携していると非難している。
- 28日、ルワンダ航空は、コンゴ（民）がルワンダ航空のコンゴ（民）上空飛行禁止としたのを受け、コンゴ（民）行きの全便の欠航を決定。
- 30日、ルワンダ国防軍（RDF）及びルワンダ国家警察による150名の部隊が、ウガンダで実施される東アフリカ共同体（EAC）の軍事演習に参加。

2. 開発協力

- 6日、EU及びベルギー開発協力実施機関（Enabel）が、ルワンダにおけるワクチン製造のため700万ユーロを支援。同資金は、ルワンダ食品医薬品局（Rwanda FDA）の強化に活用される。
- 12日、UNFPAを通じた日本の約40万米ドルの支援により、マハマ難民キャンプに産科棟を含むレファラル病院が開設（10日）。
- 18日、OPEC国際開発基金が、ニャチョンガ-ムコト道路36キロメートルの改修のため1,800万米ドルを支援。貸付期間20年、猶予期間5年、利子1.75%の譲許的借款。同プロジェクトは総額4,100万米ドルで、そのうち1,800万米ドルはアフリカ経済開発アラブ銀行が支援し、500万米ドルはルワンダ政府が主に税金や土地収用費として負担する。
- 18日、EUが2021-2027年のルワンダ向け多年度指針プログラム（MIP）を採択。2021-2024年の第1期には、技術開発、農業変革、グッド・ガバナンス、民間セクター開発の分野で2億6,000万ユーロの支援を計画。特に、持続可能な農業、若者の起業、ワクチン製造が中心となる。
- 19日、EUとUNDPが、若者の起業のために青年・文科省を通じて800万ユーロを支援。
- 20日、ルワンダとベルギーが、雇用機会創出及び社会的保護に関する1,760万ユーロの協力を合意。Enabelがプログラム実施機関となり、キブ・ベルト地域を構成するルバブ、カロンギ、ルツシロ、ルシジ、ニヤマシェケの5郡において、手工業、建築、鉱業、貿易の4分野を対象とする。

3. 経済

- 2日、2021年の経済成長率10.9%。経済成長に貢献した各セクターの成長率は、農業6%、工業13%、サービス12%。他方で、特に観光やホスピタリティの分野でコロナによる負の影響が残っており、失業率は23%。ウクライナ情勢による石油、ガス等の価格上昇がさらに負の影響を助長している。
- 4日、ンギヘレ首相がBPR銀行の設立式に参加。同銀行はケニアのKCB銀行とルワンダのUBPR銀行が合併したもので、資本金は国内銀行で2番目となる1兆6,480億ルワンダ・フラン（約16億米ドル）。ンギヘレ首相は、BPR銀行の設立は、ルワンダのインフォーマル・セクターの従事者にもクレジットへのアクセスを可能にする金融包摂の実現に貢献するものであると述べた。
- 19日、ルワンダ政府が第2期経済復興基金（ERF2）として2億5,000万米ドルを投入。イノベーション、雇用機会の創出、建築資材・農産物加工・繊維業・軽工業におけるルワンダ産（Made in Rwanda）の優先的な活用が資金投入の主な対象となるほか、コロナの影響により過去12ヶ月間に20%以上の減益となっているビジネスにローンを提供する。第1期経済復興基金（ERF）は1,050億フラン（約1億米ドル）を主にホテル、教育機関、公共交通機関等に投入し、コロナによる負の影響の大きかった産業の維持のために重要な役割を担った。

- 19日、ンダギジマナ財務・経済計画大臣が、2022/23年度の予算を4兆6,584億ルワンダ・フラン(約45億6,000万米ドル)と発表。前年度と比較して4.7%の増額。国内資金(domestic resources)は予算全体の57%を占める2兆6,549億ルワンダ・フラン(約26億米ドル)で、無償は9,069億ルワンダ・フラン(約8億8,700万米ドル)、借款は6,515億ルワンダ・フラン(約6億3,700万米ドル)を見込んでいる。支出面では、経常支出が2兆7,961億ルワンダ・フラン(約27億4,000万米ドル)、開発予算及び純貸付(net lending)が1兆8,624億ルワンダ・フラン(約18億2,000万米ドル)の見込み。
- 31日、中国の自動車メーカー東風風行(Dong Feng)が製造する車両T5 EV0が、今月29日に開催されたキガリ国際平和マラソンでの伴走車に採用された。中国製の車両がルワンダや他のアフリカ国の同様のレースで採用されるのは初。(The New Times)

以上